

再会を楽しみにサケの稚魚800匹を放流

2月16日、利根大堰の下流でサケ稚魚放流会が行われました。

(独)水資源機構利根導水総合事業所が毎年開催しているこのイベントに、今年は桜ヶ丘小学校3年生の児童が招待されました。この日放流した稚魚は800匹。小学校や自らの手でふ化・飼育した稚魚を放流した児童らは、「バイバイ。またね」と声を掛けたり手を振ったりしながら、太平洋の大海原へ向かっていく姿を見送っていました。



新鮮な行田野菜を求めて

3月15日、産業文化会館南側芝生広場で第52回行田軽トラ朝市が開催されました。

「春の感謝祭」と題し、さまざまなサービスで来場者を迎えた今回の軽トラ朝市。この日は通常の朝市に加え、地産地消の推進を図るため、行田産農産物を使ったすいとんの無料配布や古代米・行田ブランド米・行田在来枝豆を使ったおにぎりの試食、さらには福引きなども実施され、大いに盛り上がりました。これから暖かくなり、販売される野菜や花卉の種類も増えていくそうです。ぜひ、毎月第3日曜日に開催される軽トラ朝市に足を運んでください。



楽しい時間を過ごしながらいの国を理解

2月20日、VIVAぎょうだ交流スペースで国際交流フェスティバルが開催されました。

このイベントは、市内在住の外国人と交流を図り、お互いの国について理解を深めることを目的としたものです。会場ではガーナやルーマニアなど5カ国の郷土料理がずらりと並び、参加者は料理に舌鼓を打ちながら会話を楽しんでいました。また、イベントの最後には国際協力活動講演会を実施。日系シニアボランティアの川上千恵子さんが、クイズを出題したりユーモアを交えたりしながらブラジルで日本語教育に携わった経験について分かりやすく紹介しました。参加者は、このイベントで異国の文化を肌で感じながら、それぞれの国の良さを共感している様子でした。



美しいハーモニーで観客を魅了

3月7日、「みらい」文化ホールで「第19回行田市民公民館ふれあいコーラス発表会」が開催されました。

この日は、市内の公民館で活動するコーラスグループ16団体がステージに立ち、「瀬戸の花嫁」や「星に願いを」など一度は耳にしたことがある歌謡曲や童謡を披露。メンバーの皆さんは、普段の練習の成果を存分に発揮し、抜群のハーモニーで観客を魅了していました。会場となったホールには終始美しい歌声が響き渡り、誰もが心地よい時間を過ごすことができたようです。



写真館

GYODA CITY PHOTO STUDIO

商店街の魅力を再認識

3月8日、八幡町通りで行田市新町通り商店街振興組合主催の「第3回行田あきんど市」が行われました。

商店街の活性化を図ることを目的に開催している「あきんど市」。午前中はあいにくの雨でしたが、午後には雨も上がり、たくさんの方が訪れました。通りには、手芸品やアクセサリーを販売する店が出店した他、「B級グルメとアジアの食フードコート」が設けられ、来場者はショッピングや食を満喫していました。また、特設ステージでは、ダンスやよさこいソーランなどが披露されるなど、アットホームな雰囲気で行われたこのイベントを通して、誰もが行田の商店街の魅力を再認識しているようでした。



140周年の歴史に思いをはせて

3月9日、北河原小学校の児童が地域の皆さんと共に同校の創立140周年を祝いました。

児童らは、同校の良い点を書いた作文や、未来の校舎を想像して描いた絵などをみんなの前で披露。また、「学校の自慢ベスト10」の発表も行われ、学校自慢が発表されるたびに歓声が上がっていました。自分が通う学校が、長い歴史と伝統があることを感じる事ができた42人の児童らは、誇りを胸にこれからも勉学や運動に力を入れていくことでしょう。



自然を身近に感じられる公園に

2月25日、行田さくらロータリークラブ(半田太会長)の皆さんが、忍城址および水城公園に生息するソメイヨシノなど53本の樹木に樹名板を取り付けました。

忍川沿いに桜の苗木を植樹したり、市内で桜鑑賞ができる場所などを紹介した「行田さくらマップ」を作成したりと、桜を通じた親善文化事業を展開している同クラブ。今回は「桜をはじめさまざまな樹木に愛着を持ってほしい」という思いから、この活動を実施したそうです。同クラブの皆さんの手により新たな息吹が吹き込まれた公園は、これまで以上に自然を身近に感じることができるよう、これからも大勢の方に利用されることでしょう。

